

附表2 記号の説明

※公表一覧表において使用する記号の説明については、以下のとおり。

記号	名称	説明
$I_s$	構造耐震指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の既存建物が保有する耐震性能を数値で表した指標</li> <li>構造図面やコンクリート強度試験結果等をもとに、建物が保有する「強度」と「粘り強さ」、「建物形状のバランス」、「経年劣化」をそれぞれ評価して、構造計算により算定する</li> <li>個々の建設年や構造計画等によって数値は変わる</li> </ul>
$I_{s0}$	構造耐震判定指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>建物の耐震性能の有無を判定するための指標</li> <li>全国基準では鉄筋コンクリート造や鉄骨造は一般的に0.6</li> </ul>
$C_T \cdot S_D$ $C_{TU} \cdot S_D$	累積強度指標 ( $C_T$ ) 終局限界における累積強度 指標 ( $C_{TU}$ ) 形状指標 ( $S_D$ )	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄筋コンクリート造の建物に一定の「強度 (堅さ)」を確保するための指標</li> <li>建物の「粘り強さ」を過剰に評価すると (地震時の倒壊は免れても) 外装材の脱落等が生じる危険性が大きくなるため、それを防止するために、一定の「強度 (堅さ)」を確保</li> </ul>
$V_R$	構造耐震指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の既存建物が保有する耐震性能を数値で表した指標</li> <li>建物が倒壊するまでに吸収し得るエネルギー量の大きさを表した指標</li> </ul>
$V_I$	地震入力指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震により建物に入ってくるエネルギーの大きさを表した指標</li> <li><math>V_R &gt; V_I</math> の場合に、「耐震性あり」と判定される</li> </ul>
$q$	保有水平耐力に係わる指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄骨造の建物に一定の「強度 (堅さ)」を確保するための指標</li> </ul>
$Z$	地震地域係数 (地域指標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>建物が建っている地域における歴史地震の被害程度や地震活動度等に応じて国が定める補正係数 (<math>Z=0.7\sim 1.0</math>)</li> <li>静岡は <math>Z=1.0</math> (県構造設計指針により <math>Z_s=1.2</math> に割り増し)</li> </ul>
$G$	地盤指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>特殊な地盤で地震の揺れが増幅される恐れがある場合、建物に一定の耐震性能を割り増ししておくための補正係数</li> <li>「がけ地」や「局所的な高台」などの場合に割り増し</li> </ul>
$U$	用途指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害拠点や災害時要援護者が利用する建物で、地震後も継続利用の必要がある場合、建物に一定の耐震性能を割り増ししておくための補正係数</li> </ul>
$R_t$	振動特性係数	<ul style="list-style-type: none"> <li>地盤種別ごとに、建物の固有周期に対して、入力地震による建物の層せん断力を低減させる係数</li> </ul>